

愛媛FC・愛媛マンドリンパイレーツ健全経営委員会

結果概要

日時：令和4年8月30日（火）10：45～
場所：愛媛県水産会館6階大会議室
出席者：田中雅人委員長
横山ぬい委員
清水美穂委員
白石信二委員
神原浩司委員
田室和紀取締役（愛媛県民球団株）

■愛媛マンドリンパイレーツの健全経営について

発言者	内容等
愛媛県民球団(株)	[協議]「愛媛マンドリンパイレーツ(株)の健全経営について」 ○資料説明 ・2021シーズンの事業実施状況等について
委員	○質疑応答・意見交換 チーム経営について 2008年以降、来場者数の減少傾向が続いているが、経営状況を見ると10年間黒字ということで安定した経営がされているのは、県の補助金やスポーツ庁の補助金、後援会のおかげというお話があった。それ以外の面で、入場者収入とかスポンサー収入を補う努力をしているのか。
愛媛県民球団(株)	県内で13の後援会組織があり、2,000口を超える加入をいただいている。こういった皆様におきましては、コロナ禍で来場者数が減ったとしても、できる限りの地域貢献活動ということで、パイレーツの方は年間200回を超える様々な取組みをしている。そこを一番評価いただいて、支援企業さんも厳しい状況の中バックアップをいただいて、個人会員の皆様にも支援をいただいて、そういったところが大きく減少することがなかった要因だと思う。
委員	公立中学校の休日の部活動の地域移行について 地域貢献活動で年間200回に渡り、小学校や中学校などに出向いて野

<p>愛媛県民球団(株)</p>	<p>球教室であったり、地域のイベントに参加したり非常に積極的に地域活動をされている。今、公立中学校の休日の部活の地域移行の議論があり、来年度から進む予定である。具体的な話はこれから進んでいくと思うが、地域密着型のプロスポーツ球団である愛媛マンダリンパイレーツさんもその受け皿になりうると思う。今のところで、それに対し何か考えがあれば教えていただきたい。</p> <p>球団としては、ぜひチャレンジさせていただきたいと思う。野球をする子どもたちの現状を見ても、30校あればそのうちの15校ぐらいの学校の先生は、野球の経験者でない先生が部活の顧問をされている現状ではないか。そういった中で、選手だけでなく指導陣も含めて活用をしていただきたいと思っている。また、こういったところの指導ができれば、指導陣及び選手たちのセカンドキャリアにもつながると思うので機会をいただきたい。長期的には、ぜひ外部指導者として連携させていただければ、我々にとっても非常にありがたいことだと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>スポーツ観戦の仕方について</p> <p>スポーツ観戦を少し違う目的で活用して広げていかないと、かなり限られた人口の中で、こういったコロナ禍という抑制の多い世の中で来場者数を増やしていくのは難しいと思う。そこで、若い人たちのデートでマンダリンパイレーツの公式戦を観に行くというイメージをつくれぬか。愛媛県結婚支援センターと一緒に「合コンスポーツ観戦」という企画をし、それをSNS等で広報すると、若い方が対象なのでSNSの波及効果は素晴らしく、報告費用をあまりかけることなくしっかり浸透していくことができる。そういった企画にスポンサーのプレゼントなどを盛り込みスポーツ観戦をする、というような話題性も提供できる新しいPRの仕方もいいのではないかな。</p>
<p>愛媛県民球団(株)</p>	<p>コロナ禍前に、商工会に仲介をいただき坊っちゃんスタジアムのナイター試合で婚活のグループをお呼びしたことがある。野球観戦しながら、お酒飲みながら、やっぱり盛り上がっていたので、おっしゃるとおり、非常に効果があると思う。また、良い場の提供にはなると思うので、直接結婚支援センターへの相談であったり、商工会への相談だったりということを強化して努めていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>来場者数について</p> <p>坊っちゃんスタジアムなどいろんな地方に足を運んでもらうご努力というのはすごくされていると思う。先ほどの説明あったように、3年後に</p>

<p>愛媛県民球団(株)</p>	<p>来場者数 1,000 名という話を聞いたが、この数年間を見ると、1,000 名ということであれば、1 試合平均が 2010 年で 1,023 名というようなことにはなっている。この 1,000 名にするためには非常に努力が必要ではないかと思うが、目標に近づくための目玉になる取組みはあるのか。</p> <p>段階的に今年 650 名、来年は 800 名、3 年後が 1,000 名という目標を立ててやっている。先ほど提案のあったイベント企画も、球場の雰囲気づくりということも、手を出していかなければならない。また、スポーツなので勝ち負けがあるが、2016 年を最後に優勝も遠ざかっている。今マンドリンパイレーツは後期の首位争いをしているが、こういった明るい話題を作り、皆さんに知っていただきたい。</p> <p>また、去年まで 5 年間監督を務めた河原純一元監督に球団に残ってもらい、スカウティング活動を業務の一つとしてやってもらっている。そういったことで有望選手を獲得し、その選手を鍛えて育成してプロへ輩出するサイクルも作る必要があると思う。それぞれのポイントを強化しながら、3 年後には来場者 1,000 名を達成していきたいと思う。</p> <p>また、スポーツ少年団への無料招待の案内も全て自治体や連盟頼みであったが、自ら汗をかこうということで、地域ごとに直接チームとのやりとりできるように、各地域、各スポーツ少年団へ直接アプローチできるような取組みを今年スタートした。そういったリストも整備し、今後は直接チームの方にもアプローチできるものを作り上げているスタートの途中である。</p>
<p>委員</p>	<p>NPB 選手の輩出及び坊っちゃんスタジアムのビジョンの活用について</p> <p>高校生や大学生がドラフトにかからなかったとしても、愛媛マンドリンパイレーツやアイランドリーグに入って、基礎をやり直し、またプロ野球を目指そうという選手が育ってくれたらいいなと考えている。愛媛マンドリンパイレーツに地元の選手が 1 人でもいれば、地域の方々の応援もまた増えてくるのではないかと。</p> <p>また、広告収入というのが一つの大きな財源になるかと思う。坊っちゃんスタジアムは、今年 4 月にスコアボードの改修が終わったので、スコアボードを使って何か広告の収入を得れるような取組みや、観客の方がスコアボードを見ながら試合観戦ができる取組みを今後取入れていただければと思う。</p>
<p>愛媛県民球団(株)</p>	<p>四国の中で見ると、徳島の球団が 10 年連続プロ野球選手を輩出しており、選手の立場からすると、徳島に行くプロに行ける可能性がある、徳島に行きたいという良い流れができています。選手を獲得するためには、絶対に球団からプロ野球選手を輩出する必要があると思っています。今年</p>

<p>委員</p>	<p>複数名かなり良いポジションにいる選手がいるので、今年輩出することができれば、翌年以降、選手の獲得にもつながる良い流れができるので、まず、NPB への複数名の輩出を球団の第 1 番の目標としている。</p> <p>また、坊っちゃんスタジアムのビジョンも本当に素晴らしく、ナイター観戦の時では非常に映えるものになっている。より高いレベルでビジョンを活用できるよう取り扱いレベルを高めるとともに、あれだけのビジョンがあれば、いろんな静止画、動画含めた広告収入につなげるなど、様々な PR ができると思うので、そういった収入増につなげていきたい。</p> <p>スポンサー収入について</p> <p>売上の内訳を見たら、スポンサー収入が非常に大きいと感じた。少し心配であるのが、現在コロナの関係で企業自体もなかなか業績があがらない中、もしかしたら結構しんどいと考えられているかもしれない。スポンサー企業は、採用に困っているかと思う。そこで、企業が愛媛マンダリンパイレーツのスポンサーであるメリットを前面に出すと良いのではないか。例えば、YouTube チャンネルや SNS 等でマンダリンパイレーツの選手にスポンサー企業の PR をしてはどうか。選手が職場体験をして職場の魅力を伝えるなど、スポンサー企業とマンダリンパイレーツが一つになりこういった仕組み作りができれば、ほかの企業もぜひ一緒にやってほしいという声も上がってくるのではないのかと思った。やっぱり入場料がなかなか増えない中で、もう少し企業に踏み込んだメリットのある取組みをすることで、スポンサー収入は安定するのではないかと思う。</p>
<p>愛媛県民球団(株)</p>	<p>我々の存在価値というのは、今 100、200 人ぐらいの来場者数で、そこにスポンサー企業の広告価値を問われると非常に厳しいものが正直ある。もちろんそのためにできる限りの地域貢献活動をしているが、本当にあるべき姿というのは、企業同士をマッチングすることだと思っている。3 年前まではシーズンの開幕前やシーズン終了後に企業や支援者に集まってもらい、決起大会などを行っていた。そういった機会を通じて、企業を紹介するなどしていた。企業と企業のマッチングが球団に一番できること、それを価値と認めていただけるという認識はあるので、そういった機会をこれからも多く創出する努力を続けていきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>まとめ</p> <p>スポーツ観戦に関しては、従来とは違った観戦の仕方という意見もあったので、チケット販売の方法など様々なアイデアがあると思うので、検討してほしい。</p> <p>公立中学校の休日の部活動の意向は、来年度からスタートし、3 年間で</p>

移行ということを目指とされているので、県でも休日の部活動に関しては、教員がやるのではなくて地域の方が指導を行う形に変わる。提案のとおり、指導者の派遣であるとか、球団でクラブを作ってそこに休日子どもたちが参加できれば。これから中学校の部活動は変わっていくと思うので、ぜひ県内のプロスポーツチームにもご協力願いたい。

また、球団の使命としては、地域貢献ともう一つ NPB への選手の輩出ということだったが、なかなか難しいと思う。ただ、選手のセカンドキャリアを考えると、次のことも考える必要があると思うので、選手のセカンドキャリア支援といったところも充実すると、プロ選手を目指す学生たちも納得がいったら次の仕事を考えることができると思うので、そういったところもぜひ力をいれていただきたい。